



北海道遺産・北見市指定文化財

ピアソン記念館

第111号

(隔月刊)

ピアソン便り

発行：2023. 7.31

(令和5年7月31日)

発行人：中山 一夫 (理事長) 編集人：伊藤 悟 (副理事長)

NPO 法人ピアソン会事務局

(事務局長 伊藤 悟)

〒090-0036

北見市幸町7丁目4番28号

TEL.FAX 0157-31-1215

ピアソン記念館内

午前9:30～午後4:30

e-mail アドレス

pierson@yacht.ocn.ne.jp

「フォーラム」を全国で展開！ 「ピアソン」を全国大会で！

NPO法人ピアソン会
副理事長 伊藤 悟

今年の全国大会は、6月10日・11日に静岡県御殿場にある東山荘（日本YMCA同盟）で開催されました。この施設は、大正時代初期に開設され、夏季等の研修施設として、多くの若者達が利用しています。また歴史に名を残すような有名な会議なども開催されています。勿論、ヴォーリスもこの東山荘開設時には設計建設に関わっていますが、現在ヴォーリス建築はフィッシャー館一棟だけになりました。



フィッシャー館

10日土曜日午前中に本館で幹事会が開催されました。北海道から参加する私にとっては、ここ数年ズーム会議での幹事会参加ばかりでしたが、やはり実際の会議がしつ



くりときました。

午後からは、斎藤記念館（1号館）で総会が開かれ、その会の議事進行役を指名され、虎の巻の進行表を辿りながら議案を全て承認・終了することができました。

その後は、写真下にあるように、有意義な講演が二つありました。吉田悦蔵の孫にあたる吉田与志也氏の講演では、ヴォーリス晩年の生の声の録音資料が流され、ヴォーリスの声を聞くことができました。芹野与幸氏のトークセッションでは、全国から参加した多くの仲間達の活動を巧みに取り入れ紹介



写真左／「トークセッション」
公益財団法人近江兄弟社嘱託研究員、
芹野与幸氏。



写真右／講演「ヴォーリスとYMCA」
吉田与志也氏



し、テーマと合わせながら話を進めていく形式でした。斬新なトークで盛り上がりました。

いよいよ夜の懇親会。この会では、全国から集まった懐かしい人々との交流ができ、積もる話を交わし、楽しいひと時を過ごしました。司会をつとめられた数ヴォーリス記念館館長の見事な進行で、多くの新しい仲間の紹介やスピーチなどもある中で、関西学院大学に、「ヴォーリス研究センター」が開設され、角野センター長の紹介・スピーチもありました。

了

ザ・グッピーズ (フォークグループ5人編成) 「サマーコンサート in ピアソン館」 終了報告



写真上/ピアソン記念館初めてのフォークコンサートは盛況でした。

1969年、北海道教育大学旭川校に通う4人で結成したフォークバンド。その年の秋、第3回ヤマハ・ライトミュージックコンテスト (L.M.C.) 全国大会に出場し、フォーク部門第3位に入賞。【ちなみに、フォーク部門第1位で大会グランプリは「赤い鳥(後のハイファイセット)と紙風船」、フォーク部門第2位は小田和正と鈴木康博の「オフコース」でした。】。続く1970年のL.M.C.全国大会にも出場。翌年解散コンサートをもちバンドを解散、大学卒業後それぞれの道へと歩みだしましたが、2011年、仕事も一区切り、還暦を迎えてから、一名女性ボーカル(フルート)を加え、道内でボランティアコンサートを開始しているグループです。当理事長中山の同級生(教員仲間)の縁から、当記念館でのボランティアコンサートの開催となりました。限定40名の整理券満席のコンサートとなりました。
(コンサートの一部を当会ホームページにて紹介)

北見市ことぶき大学
講義「ピアソン夫妻」
〜夫妻が北見に残したもの〜

7月27日木曜日、北見市中央公民館事業ことぶき大学の受講生たち約150名に、ピアソン夫妻に関する歴史講義講師を、当会伊藤副理事長が努めました。

公的な事業でピアソン記念館に関する講演機会には今まで恵まれない状況でしたので、地元の高貴な文化遺産であることを紹介し、ピアソン夫妻が郷土の町づくりに尽した功績を紹介してきました。



写真/ことぶき大学講義 (北見市中央公民館提供)

第25回グリーンコンサート

演奏団体：・市立中央小学校 ・市立北中学校
・アンサンブル A0・北見吹奏楽団の4団体



◎日時/7月1日 土曜日
◎開演/ 13時00分より
◎場所/ピアソン記念館前庭
◎ /入場無料

※問合せ ピアソン記念館 (電話) 23-2546

グリーンコンサート中止!

4年ぶり開催(コロナ禍)の7月1日実施予定第25回「グリーンコンサート」は、開催当日朝10時、理事会を開催し、天気予報・雨雲レーダー等情報を集めた結果「中止!」の判断を下す事となりました。当日は風も強く、肌寒い気温ということもあり、金管楽器が主な編成でのコンサートで「雷」注意報も出ていることからの判断でした。用意万端、主催スタッフも全員集合しての決定で、すぐに出演団体に「中止」の連絡をし、中央小と北中には、中山理事長・伊藤事務局長が直接出向いて、児童・生徒さんたちに、直接中止にならざるを得なかったことを伝えて来ました。北中では、「生徒たちが練習した曲をぜひ聴いて!」と、1曲を演奏してくださいました。

第39回文化サロン de ピアソン

ハーブフラワーキャンドル作り



- ◎ 開催日時：2023年9月7日(木) 午前の部(10時~12時10名)・午後の部(13時~15時10名)
- ◎ 開催場所：ピアソン記念館2階及び前庭(※雨天の場合はオリジナルサシェ作りに変更)
- ◎ 講師：増井五夜子氏ほかピアソンハーブ部会員
- ◎ 予約チケット：材料費として1,500円。(9月1日よりピアソン会にて予約受付、電話可。)
- ◎ 問い合わせ：NPO法人ピアソン会(電話 0157-31-1215) ピアソン記念館 ☎ 23-2546

投稿

文責：北原俊之

ピアソン忌に寄せて

1939 (昭和14) 年、7月31日 (月) ピアソン宣教師、フィラデルフィアにて召天 (78歳)。

ウエストミンスター神学校からの追悼文 (抄)

旧プリンストン神学校派からの心のこもった追悼の辞

ジョージ・ベック・ピアソン

ここ米国でもまた極東 (日本など) の国々でも、数多くのキリスト教関係者は、長年日本で宣教師として活動し1928年に勇退帰国していた牧師ジョージ・ベック・ピアソン神学博士が、7月31日に逝去なされた報に接して、悲しまれることと思います。彼は、フィラデルフィアに住む義弟の家で、心臓発作のため亡くなりました。葬儀はニュージャージー州エリザベス市で、8月4日に行われます。

..... 中略

ピアソン博士は、聖書にもとづく伝道の立場を貫き続け、またウエストミンスター神学校の忠実な支持者であり続けました。彼は、長年、全身全霊で福音伝道をする宣教師の使命に誠を尽くしてきましたが、(今ようやく)彼の死によってその長い「務め」が終わることになりました。

「ピアソンの葬儀は、極めて厳粛かつ驚くほど簡素であった。集った人たちが十五、六名。賛美歌は一つ。ピアソンについて何も語られず、葬儀は二十分くらいで終わり、司式も葬儀屋牧師によってなされた。日本で伝道した日本語のできる宣教師が、生月氏に日本人がこの葬儀に出れたことはよかったです。

*『プレスビテリアン・ガーディアン』1939年9月発行
各地中会からの話題『通巻174頁』

* * * * *

※プレスビテリアン・ガーディアン紙

THE PRESBYTERIAN GUARDIAN

は、Orthodox Presbyterian Church

(正統長老教会) が発行していた雑誌

(新聞)。1935から1979まで。

唯一参加した日本人が語る葬儀の様子

留学中の生月前氏が図らずも参列したことで様子が分かることになりました

伝道局本部からの電報による公式追悼録 (抄)

米国長老教会海外伝道局
ニューヨーク5番街156
1939年8月16日

日本伝道団宛

皆様

今朝の役員会において、ジョージ・P. ピアソン博士に対して次のような追悼録が採択されました。皆様が一刻も早くこの報告を受け取られるように、特別便にて発信いたします。

追悼録 一 神学博士ジョージ・P. ピアソン師

伝道局は、日本伝道を引退された神学博士ジョージ・P. ピアソン師が、7月31日ペンシルバニア州フィラデルフィアにて逝去されたことを、哀悼の意をもって書き留めます。

..... 中略

ピアソン博士夫妻は1928年に名誉ある引退をされ、ペンシルバニア州フィラデルフィアに居を構えました。1937年に夫人が亡くなった後も、ピアソン博士は、1939年7月31日に亡くなるまで住み続けておりました。伝道局は、アメリカと日本の多くの友人たちに心から哀悼の意を表します。伝道局は、外国伝道の大きな理想に対してかくも献身的に捧げられた生涯を想い起こすことに心から喜びを感じます。海外宣教はこのような生涯を支えられ、福音はこのような生き方によって示され、教会は建てられていったのです。海外にあるこのようなキリストの教会は、重く押し寄せる圧力にも負けない岩のように堅い献身と信仰の上に立つ、という確信があってはじめて伝道局は前進する勇気を与えられるのだ、ということがわかってくるのです。

心からの敬意を表し (敬具)

敬 具

J. L. フーパー
秘書官代理

一言いっただけである。.....これほど簡素で、莊嚴身のひきしまる葬儀を経験したことはなかった。(生月氏談) 『田舎伝道者ピアソン宣教師夫妻』 小池創造著 (1967)』

一九三三年 洗礼を受ける。
一九三五年 三年間遠軽教会牧師
一九四一年 米国留学より帰国
一九四三年 N.H.K.に約35年間勤務
一九四六年 召天

生月前氏 (略歴)

一九一〇年 野付牛に産まれる
両親がクリスチャンで幼いときからピアソン夫妻と親

ウエストミンスター神学校とは

ウエストミンスター神学校 (英: Westminster Theological Seminary) は、アメリカ合衆国ペンシルベニア州フィラデルフィアの北部郊外グレ

ピアソン宣教師逝去・葬儀メモ

1 召天日時	1939(昭和14)年7月31日(月) 夜
2 死因	糖尿病に起因する心臓発作
3 場所	R・マックス・ゲップ邸 (フィラデルフィア市) 住所: 4047 Pine Street, Philadelphia, PA 19104
4 葬儀	8月4日(金)午後2時 オグデン葬儀場 (エリザベス市) F.C.&H.C. Ogden Funeral Parlor 住所: 458 North Broad St, Elizabeth, NJ
5 葬儀参列者	全部で15~16名。日本人は生月前氏のみ。 ※司式: 第一長老教会チャールズ・アレグザンダー・ロス牧師。 兄デイヴィッド・H、姉メアリー・H、妹キャロライン・ビゲローは、存命中であったので参列したか?
6 埋葬	ローズデール墓地 アイダの隣に。 近親者のみ参列

*この表は、新聞記事、書籍などを参考に北原が作成しました。

ンサイドにある、改革派教会と長老派教会の大学院の教育機関。

プリンストン神学校は、二〇世紀初期まで正統的な長老派の神学の要塞であった。しかし、一九二九年にプリンストン神学校は、神学的リベラルの線で再編成し、近代主義、リベラルに親和的な教授を任命した。メイチェンらは、これに反対し、新しくウエストミンスター神学校を設立した。 Wikipedia 上

「ニュージージーランドからの便り」第40回

ピアソン会顧問 グラハム・ハード氏



2023.5.26 (金)

◆昨日、予定通りに北見駅に到着し、今はホテルでくつろいでいます。昨夜はよく眠り、今日は、以前に親しんでいた場所などを散策してみようと楽しみにしています。

◆そしてまた、明日はピアソン会集会で皆さんにお会いできるのが楽しみです。ごきげんよう。

2023.6.1 (木)

◆ピアソン会の皆様、土曜日(5/27)には温かいおもてなしをいただき感謝いたします。昨日(5/31)の天候は、オホーツク海までのドライブには最高で、新しい思い出と共に北見時代への郷愁などに満たされました。

2023.6.5 (月)

◆本日は、北見駅でのお見送りありがとうございました。どうぞ、あまり間を置かず、いつか再会できるまでお元気でありますように。

2023.6.23 (金)

◆送別のメッセージをありがとうございます。今は、ファンガパラオアの自宅に戻りくつろいでいます。天候は、はじめで涼しいにもかかわらず全てが快適です。

◆旅行は全て計画通りに進みました。弟のマーレイがオークランド空港に出迎えてくれ、帰途、姉夫婦ジュディとスタン、二人とも元氣、のところに寄りました。素晴らしいかった北海道の旅の様子を沢山聞いて、喜んでくれました。

◆ピアソン会やESSの皆様方、私の旅を特別な思い出になるように、また喜びに満たされたものにしてくださったお心遣い、心から感謝を申し上げます。次にお会いする機会はそれほど遠くなければ良いのですが、では、その時まで、どうぞお元気でおいでになりますように。

2023.7.12 (水)

◆ファンガパラオアからのご挨拶
お便りありがとうございます。北見の皆様方が、夏の暑さにもかかわらずお元気でありますように。

◆ここ南半球は目下真冬です。寒く湿気の多い日々ですが、私は新ストーブのおかげで暖かく心地よい日々を過ごしています。シエークスピア公園での散歩に、雨でぬかるんだ地面は歩くに容易ではありませんが、時折出かけています。先日、8羽のコガモを連れたマガモが、保護柵に沿って歩いているのに出会って嬉しくもあり驚きもしました。この季節はまだマガモ

たちには早すぎるので、少なくとも何羽かのコガモには生き残ってもらいたいものです。札幌にいた時には、旧庁舎前のユリの池に、似たようなオシドリ家族に出会ったことも嬉しかったのですが、ずいぶん長い年月が過ぎましたが、北海道を再び訪れることができ、北見や札幌で懐かしい友人方との再会が叶ったことは、とても幸せで恵まれたことでした。滞在中は素晴らしい好天に恵まれました、特に北見では、桜の花はすでに散っていました。桜の花はすでに散っては花々が満ちていて、北海道は最も素晴らしい季節のように見えました。ピアソン夫人が六月の北見をどんなに愛していたか思い出しました。(注/ G・ピアソン 六月の北見路)

◆ピアソン会の定期総会に出席できたこと、会員の皆様と共に、元の応接室での総会の席に着かせていただいたこと、殊のほか光栄でありました。いつものように、記念館とその展示物は見事な状態に置かれ、総会の運びは、賞賛すべき日本のなまめ細かさど気配りによつてなされました。その場でも述べましたが、ピアソンご夫妻は、お二方とその遺産が、北見では今に至るもまだこのように敬意をもって維持保存されていることに、驚き、喜ばれるに違いないと確信いたします。

◆続いてオホーツク・ピア・ガードンでの懇親会に連なることができたのもまた喜びでした。メニユールでした。ピアガードン・レストランは顧客で大賑わいでした。

◆日本での日常生活が、ここニュージージーランドと同じように、コロナ感染症の試練を経て、ほとんど正常に戻っていたことに気づき、嬉しかったです。旅に出た頃は、コロナの妨害なしに旅行が続けられて自由に人々と会うことができ、かどうか、確信はありませんでした。そんなわけで、予定通り遂行できるという確信は大きな喜びでした。もちろん、直近のワクチン接種を済ませ、日本でのマスク使用の習慣や、特に公共交通機関でのそれは当然のことでした。

◆札幌・北見の往復はJRを利用しました。私は多くの旅をしてきましたが、車窓からの壮大な眺望は常に喜びであります。今回は、そのような最高の眺めでした。田植えが終わったばかりの水田や頂上は残雪のある大雪山から流れ下る清流。

◆北見滞在中はオホーツク地域の気に入りのところ、阿寒湖や美幌峠、またオホーツク海へドライブしました。北見市内では常磐公園やムカ川沿いの堤防を歩きました。近所に住んでいた頃の習慣のような事でしたが、両方ともに情緒が漂い、地域の方々の日常的な関わりが思われました。

◆一方、滞在中にとりわけ大事に思いまた喜ばしく思ったことは、「日本語を使い、美味しい日本の食事をいただき、日本の文化そのものの中に身を置いたりして友人たちと時を過ごし、もういつぱい日本に戻っているかのようにさせてくださった機会があった」ということでした。顧みれば、私は美しい夢の中に居た、という気持ちでいます。皆様の親切なおもてなしに感謝し、ご多幸をお祈りいたします。

グラハム・ハード

瞳ふあっしょん・瞳けあ
めがねのよっしー
代表 岩井敏忠
〒090-0043 北海道北見市北3条西3丁目
携帯. 090-2693-1919 TEL. 0157-57-3664
定休日/毎週木曜日・営業時間/10時~19時

編集後記
7月22日土曜日のザ・グッピースによる「サマーコンサートinピアソン館」は盛況に開催され、遠くは札幌からのファンまで駆けつけてのコンサートになりました。大成功であったと思います。ホームページ動画で一部を紹介予定です。初めての試み、ピアソン記念館エコバッグは完売となりました。ありがとうございました。次は英語表記のバッグを！
(副理事長兼事務局長) 伊藤 悟